

「令和6年度 学生 FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書」 の掲載について

日本大学では、FD活動に学生の声を反映させながら教育力の向上を目指すべく、平成25年度より、16学部95学科、短期大学部4学科、通信教育部を対象に学生・教員・職員が一堂に会して学生FDや本学の教育について理解を深め、気軽な雰囲気の中で語り合う「日本大学 学生FD CHAmmit（ちゃみっと）」を開催しております。

全学規模のイベントとなっており、例年、各学部等から200名以上の参加者を得て開催しております。令和2年度及び令和3年度においては、コロナ禍の影響により、オンライン（Zoom）開催とし、令和4年度はハイブリッド方式、令和5年度は完全対面方式が復活いたしました。

第12回目となる令和6年度においては、テーマを「魅力・強みの再発見～日大をどう活かす？～」とし、自分が所属する学部、学科の魅力や強みは何なのか、他学部がもっている授業の魅力や強みは何なのか、それらを把握したうえで自分たちが今後の日本大学の教育、主に授業形態をどのように改善・活かしていきたいのか意見を出し合いました。それらを踏まえ、最終的に「学部に望む授業」「全学部に関わる項目」を提案書として作成しました。

学生からの提案を受けて、効果的な教育改善の実現に繋がるよう、商学部において学生との協議の場を設け、学生・教員・職員の三者で協議した上で「学生への回答書」を作成いたしましたので、御覧いただきますようお願いいたします。

今後も商学部では、教育の質や改善について検討を重ね、より良い教育環境づくりに努めていきます。

令和6年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく学生への回答書

1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和7年2月14日	CHAmmit参加学生5名(学生スタッフ含む)、その他学生2名、FD委員長1名、教務課職員2名の計10名にて対面にて、学部提案書、授業に対する考え方、学び方そして令和7年度から始まる新カリキュラムの授業方法等に関して1時間程度の意見交換を行いました。

2 商学部から学生へのメッセージ

<p>今回の学部における意見交換(商学部しゃべり場)では、CHAmmit参加学生のみならず、学部・大学院生と幅広い学生を交えてしゃべり場を開催しました。商学部で4年間過ごした方、過去にいろいろな教育機関で学んできた大学院生からの意見もありました。</p> <p>商学部では、令和7年度からは授業1回の時間が90分間から105分間に変更されます。今回の「商学部しゃべり場」では、提案項目のうちからは特に重要と感じる意見について意見交換を深め、また、令和7年度から授業時間が変わるにあたって、どのような授業方法が良いと思うかについても意見を出し合いました。教職員もよりよい授業はどのようなものかを常に模索していますが、既に考えていたものうち、今回学生の方との「教育的効果の高い授業の方法」の意見の一致もありました。今回いただいた意見を真摯に受け止め、今後もより良い授業とは何か、教職員で模索していきます。</p>
--

3 学部提案書の対応について

「学部に望む授業」の提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
<p>・学生の授業における学修意欲や、学修内容の定着を高めるために、授業内に小テストをこまめに設けたり、課題の機会を増やしたり、プレゼンの機会を設定する。そして課題については解説をする。</p> <p>例) 全15回授業の場合、5回に1回は復習テスト</p> <p>例) レポートの解説・模範解答の提示をする。</p>		○		小テストと課題に対する回答の提示等フィードバックについては、学部としても学修効果を鑑みて、実施することが大切であると考えており、シラバスにもフィードバックの方法に関して記載をする項目を設定したりと実施を促しています。今後も学部内のFD研修をとおして、小テスト、課題、プレゼン等の取り入れ方を教員間で共有しあい、また、フィードバックをすることを推し進めていきます。
<p>・習熟度の高い学生には学修意欲を高める効果を狙い、より難易度の高いものを学修できる機会を用意する。</p>	○			英語の授業に関しては、習熟度別のクラス編成にしています。その他の専門科目に関しては、習熟度別に分けることはカリキュラム上難しいですが、将来のカリキュラム改正の参考意見といたします。
<p>・時事内容を取り上げたり、学外活動、学外の方による授業、学修内容の実践の場を設ける。</p>	○			教育的効果を上げることを目的とした学外の方の講演の機会は、各授業において必要と教員が判断した場合は取り入れています。学生の方からも、学外活動、学外の方による授業、学修内容の実践の場があるとよいという感想を今回いただきましたので、この感想を教員に共有し、よりよい授業に変えていきたいと思ひます。
<p>・ケース分析等を伴う発表の授業において多様な視点からの分析をできるようにする。</p>		○		今回実施した商学部しゃべり場においても、学部、大学院生問わず、学んだ理論を実践する場があると、意欲と学修効果が増すという意見が複数ありました。今後のFD研修において授業をよりよくする鍵として実践する場を増やすことも共有していきたいと思ひます。
<p>・学生の集中力を持続させるために、授業内に休憩時間を設ける。</p> <p>理由) 来年から授業時間が105分になるため、より集中して授業に取り組むための方法を考えることが必要であると考えた。90分授業でも集中していない学生が多く、真面目に授業に参加したいと考えている学生が不公平だと感じる人が多い。</p>	○			令和7年度から授業1回の時間が90分間から105分間に変更されます。この変更を効果的に生かすための工夫については、商学部内でFDシンポジウムを既に開催し、授業を聞く側としてする側にとってより良い授業構成案や、注意点などを授業形態・受講者数別に共有し、意見交換をしました。
				新年度からの新しい授業形態において、今まで以上に良い学修環境となるように、今後も検討を続けていきます。

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
・シラバスを閲覧しやすくする。			○	シラバスのシステム改善については、費用が膨大にかかることから中長期的な検討になりますが、その際は、より閲覧しやすいものとするべく今回の貴重なご意見を検討材料とさせていただきます。
・学生の選択肢を増やすためにコース横断の科目を増やす。	○			商学部では、自身の学科・コース以外の科目もすべて履修の選択範囲になります。令和7年度入学者から適用される令和7年度改正カリキュラムにおいてコースはなくなりますが、自身の学科以外の全ての科目が履修登録の選択肢になることに変更ありません。
・同学部他学科/他学部と協力して一つのプロジェクトを進めるような講義を設ける。	○			カリキュラムの観点から、他学部と協働してプロジェクトを推進する講義の開設は難しいのが現状です。「自主創造の基礎」では一部を他学部の学生と協働する時間があります。商学部他学科については、ゼミナールの授業は学科によらず入室することができるため、同学部他学科/他学部と協力して一つのプロジェクトを進めるような講義となります。
・学修した理論を実践する場としてキャンパス周辺を活性化させる計画をグループで立てるような授業をする。	○			近隣地域に目を向けた連携する科目はゼミナールも含めいくつか開講されています。ぜひ履修をしてみてください。
・1・2年生が就活について触れる機会やキャリアにかかわるような授業(就活についての周辺知識やインターン)を必修科目する。	○			将来に向けて、自分自身の個性・持ち味を生かし、活躍していくためには、1年次からの「キャリア」について準備と積み重ねが大事であると学部も考えています。キャリアに関する授業は、必修ではありませんが1年次から履修できる科目もあり、就活に関する知識のサポートは、就職指導課が1年次から参加できるセミナーを通して行っています。キャリア教育関連科目、セミナー、イベント等をよりご活用ください。周知がより浸透するよう検討いたします。
・発想力、想像力、アイデア力を鍛えるような授業を増やす。		○		授業方法は、授業によりさまざまですが、アクティブラーニングの方法をとる授業も増えてきています。今後も学部としては、アクティブラーニングの方法に関するFD研修等で効果の共有を進めていきます。
・自主創造の基礎の内容を統一する。 教員の負担軽減、教員によって内容が違いすぎるため、学習内容、効果にも差が出ているため。		○		自主創造の基礎は、授業で得られることの最終目標（学修到達目標）は統一しており、その授業の方法は教員の裁量により適したのをとることにしています。効果に差があることについては、自主創造の基礎の関係組織に共有いたします。

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
<ul style="list-style-type: none"> 必修授業において評価方法を統一する。 		○		必修授業においては、授業内容、成績評価方法を統一している科目があります。科目によって主旨があるため、統一していない必修科目もありますが、統一している科目については、現状の共有をいたします。

※令和7年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。